

農業者の英智の活用への期待

最近、日本農業の将来について、悲観的意見が多い。資源に乏しいわが国としては、農業においても科学技術の躍進をはかり、独創的な着想や研究技術開発で、世界をリードすることに望みをかけたい。日本は、鎖国状態にあった徳川時代の中期から世界の注目をひいた独自の文化を発達させ、教育・稲作技術などの面でも中国をおい越した。日本民族が、独創性において劣るとは考えられない。農業技術においては、明治以後も老農・篤農家・精農家の厚い層があり、戦後も保温苗代の技術開発や米作日本一の競作で発揮された精農家の技術が基盤となって、官民の協力で世界的にも評価される米の多収穫技術とその理論化に成功した。中国では、最近、上部は国・省・県の研究機関から下部は人民公社の試験施設までを動員し、研究者・技術者・農民が結びついて、技術の向上と開発が進められている。育種関係では、日本で創出された薬培養による新作物育種法が、日本では考えられない多人数の規模で実施され、短年月で稲・麦の新品種の育成に成功している。正に、研究技術躍進の人海戦術である。わが国では、高い水準の教育を受けた農業者が、力をもてあましている面もあるのではなからうか。今後に期待される地域農業の発展に寄与する雑草や病虫害の総合防除の技術などの開発にも、これらの方々の英智や実力を活用できないものだろうか。地方自治体・普及所・農協などに、ある程度の試験施設を設け、農業者の英智と情熱を活用して、試験研究技術陣の実質的増員をはかることを考えるべきではないか。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 馬場 起〕
東京農業大学農学部教授

目 次

(第15巻第2号)

畑作除草剤試験研究のあれこれ……………	2
— 畑作男の除草剤との出会い —	
＜九州農業試験場次長 中澤秋雄＞	
1. 畑作男の除草剤との出会い……………	2
2. 畑作除草剤試験研究のあれこれ……………	3
C-MHの生理作用と植物体内の行動について……………	12
＜宇都宮大学 竹内安智・竹松哲夫＞	
昭和55年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………	20
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
昭和55年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………	25
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
外国文献抄録	
穀物の収量……………	26
新除草・調節剤	
植物成長調整剤「フィガロン」……………	31
CAT・アトラジン除草剤……………	32

表紙の写真は、カタバミの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、亀甲突起型、4000倍。

〔写真提供者；笠原安夫氏〕